

プロジェクト報告書

団体名 在宅ホスピスボランティア さくら

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願いします)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

病む人に寄り添う

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※応募申請書に記載のもので可。

厚労省は看取りの場を病院から在宅に舵を切った。家で最期を迎えたいと考える国民は60%に及ぶが実際に実行できる方は10数%に過ぎない。その大きな理由は在宅の介護力の不足だ。日常の生活の場で患者が最後まで過ごすには一定の学びを終えた地域のボランティアの力が必要であり、その啓蒙と教育が望まれている

3. プロジェクトの内容 300文字まで

※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のもので可。

ボランティアを対象に重篤な患者に寄り添うためのスピリチュアルケア研修会を実施した。
東大和市民を対象に在宅での看取りについて講演会を実施した。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

ボランティア研修では高齢者介護の教育に実績のある「特定非営利活動法人アビリティクラブたすけあい」から講師の派遣をお願いした。

東大和市民対象の講演会は、基調講演講師の他に福祉協議会の支援と地元の薬局、看護ステーションの責任者を講師にお招きし、お話を伺った。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

在宅の看取りは主介護者の強い意志が必要であるが、一般の市民はなかなかそこまでの決意は持ち切れないのが実情である。私達のボランティア活動は市民の在宅での高まりに従って活躍の場が増えるので、当面は在宅医療の啓蒙活動(ミニ講演会の実施)への努力を続けたいと思う。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし